

会 議 録

- 1 会議の名称 令和5年度 第3回掛川市子ども・子育て会議
- 2 会議日時 令和5年12月25日（月）13時30分～15時40分
- 3 開催場所 掛川市役所 4階 会議室1
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 静岡福祉大学 永田会長 他16名
 - (2) 執行機関 (事務局)
 - (3) その他 (株)サーベイリサーチセンター 静岡事務所
(掛川市こども計画策定に関わる調査業務 委託業者)
- 5 議事
 - 説明事項
今後5年程度を見据えたこども施策の基本的な方針と重要事項等
～こども大綱の策定に向けて～（答申）
 - 協議事項
こども計画策定に係る調査項目について
 - (1) 子ども・子育て支援事業に係る調査項目
 - ①未就学児保護者用（1,500件抽出）
 - ②小学1～3年生保護者用（全件）
 - (2) 子どもの貧困対策に係る調査項目
 - ①小学5年生、中学2年生用（全件）
 - ②小学5年生、中学2年生保護者用（全件）
 - (3) こども・若者に係る調査項目
 - ①16～39歳こども・若者用（1,500件抽出）
- 6 資料
 - 資料1 今後5年程度を見据えたこども施策の基本的な方針と重要事項等
～こども大綱の策定に向けて～（答申）
 - 資料1-1 ライフステージごとの各種事業
 - 資料1-2 子ども・子育て支援事業計画・
子どもの貧困対策計画・こども若者計画に係る主要事業の分類表
 - 資料2-1 子ども・子育て支援に係る調査（未就学児用）
 - 資料2-2 子ども・子育て支援に係る調査（小学1～3年生用）
 - 資料3-1 子どもの生活に関するアンケート（子ども用）

資料3-2 お子さんの生活に関するアンケート（保護者用）

資料4 こども・若者に係る調査項目（16～39歳用）

7 発言の内容

事務局	<p>(1. 開会)</p> <p>皆さんこんにちは。本日はお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>定刻になりましたので、ただいまから第3回掛川市子ども・子育て会議を開会いたします。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、3名につきましては、所用により欠席の旨、ご連絡をいただきます。したがって、本日の出席者は掛川市子ども・子育て会議条例第6条第2項に規定する定足数に達しております。</p> <p>また、本日の会議は、掛川市子ども計画策定に関わる調査業務委託先であるサーベイリサーチセンター静岡事務所の担当が同席しております。ご了承いただきたいと思っております。</p> <p>また、追加の資料としまして1-2を配布させていただいております。それでは、お手元の次第に従いまして、会議を進めて参ります。</p> <p>まず初めに、子ども・子育て会議永田会長より挨拶を申し上げます。</p>
会長	<p>(2. 会長あいさつ)</p> <p>挨拶</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、高柳副市長より挨拶を申し上げます。</p>
副市長	<p>(3. 副市長あいさつ)</p> <p>挨拶</p>
事務局	<p>ありがとうございました。副市長につきましては、次の公務が入っております。ここで退席をさせていただきます。</p> <p>次に説明事項に移らせていただきます。条例第6条第1項の規定により、会議の議長は会長が行うとされていますので、ここからの進行は永田会長お願いいたします。</p>
会長	<p>(4. 説明事項)</p> <p>それでは次第に従い、説明事項に移ります。</p> <p>「今後5年程度を見据えたこども施策の基本的な方針と重要事項等、こども大綱策定に向けて」について、事務局からの説明をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>資料説明</p> <p>「今後5年程度を見据えたこども施策の基本的な方針と重要事項等、こども大綱策定に向けて（答申）」</p>

<p>会長</p>	<p>今の事務局からの説明事項について、ご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。</p> <p>これは子ども・子育て事業を全体で見るという考え方でしょうか。</p> <p>全体的に見ていくために、今回の項目を3つに分けて調査をしていくということでしょうか。その説明をしていただいたということでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>会長からお話があった通り、資料の1-1と1-2につきましては、お話の通り既存の計画をA3の縦の資料で、ライフステージごとに今回の大綱に合わせて事業を入れさせていただくのと同時に、今後考えられる部分についても追加を検討しています。</p> <p>また、A3の横の資料につきましては、重複することが多いというところで、このように、こども計画というものは、いろんなものが絡んでいます。一つの計画だけではなく総合的に作っていくというところを、こちらから示させていただきました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。他にございますか。</p> <p>それでは次の協議事項に移りたいと思います。それでは事務局からの説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料説明</p> <p>「(1) こども計画策定に係る調査項目について」</p> <p>①未就学児保護者用 (1,500件抽出)、②小学1～3年生保護者用 (全件)</p> <p>「(2) 子どもの貧困対策に係る調査項目」</p> <p>①小学5年生、中学2年生用 (全件)、②小学5年生中学2年生保護者用 (全件)</p> <p>「(3) こども・若者に係る調査項目」</p> <p>①16～39歳こども・若者用 (1,500件抽出)</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、1の子ども・子育て支援事業に係る調査項目についてです。資料2-1と2-2になります。皆様のご意見をいただきたいと思っております。どなたかご意見おありでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今日初めて来させていただいて、内容等でわからないことが多いのですが、まず、この2-1と2-2の子育て支援に係る調査で、先ほど全体像を見せてもらった中からこうやって分けたと思っています。未就学児と、小学校の1から3年でその次は小学校5年という分け方をされていて最後が16歳から39歳、無作為に抽出するパターンと、全員対象っていうパターンの分け方とか、アンケートのとり方をどうやって決めたのかということをお伺いしたいです。</p>

会長	はい、事務局お願いします。
事務局	<p>ありがとうございます。まず資料の2-1、2-2につきましては、子ども子育て支援事業計画というものを、掛川市では平成27年度から作っておりまして、今回10年が経ちまして3期目の計画になります。その際の調査項目を今回も踏襲しております。先ほど説明があった通り、国の必須の項目がございますので、これにつきましては、継続的に聞いていかなければいけないものになっております。</p> <p>調査数ですが、未就学児の親が1,500、1年生から3年生の保護者につきましては、教育委員会で協議した中で、全員の保護者さんに聞こうということで聞いております。1年生から3年生につきましては、主に学童保育のニーズとか、放課後の居場所の関係について、把握をしたいということでやっております。</p> <p>次に生活に関するアンケートにつきましては、平成29年度第1回の掛川市子どもの貧困対策計画を策定しております。その際にお子さんにつきましては、小学校5年生と中学2年生の全員及び保護者に聞いております。今回の計画を作るにあたりましては、その事業の実施の効果等も測定したいということで、同じように小学校5年生、中学2年生の子供及び保護者の方に聞くアンケートとしております。なお新たにヤングケアラーについては、保護者について、子どもについての両方を追加させていただいております。</p> <p>最後になりますが、こども・若者計画になります。16歳から39歳を対象に、無作為抽出で1,500件を予定しておりますが、実は掛川市にはこども若者に対する計画を今まで持っておりません。そのため、他市の状況を伺う中で、その世代に調査の方をかけていきたいと考えています。概要を担当からご説明させていただきましたが、本人のこと、通常の家での生活、それに合わせて引きこもりの関係、結婚、こどもに対する将来的な希望についてもお聞きしたいということで質問しておりますので、これは新規の新しい調査であると考えております。説明は以上でございます。</p>
会長	はい。ありがとうございます。他にございますか。
委員	ありがとうございます。昔からやっているところを狙ってやっているということはずごくよくわかりました。あと、アンケートをとっていく中で全員が全員出してくれるわけではないと思いますし、なかなか量が多いように感じたので、取れたものは継続し、取れなかったのは少し形を変えてやっていく等も必要なのかなと感じました。
会長	未就学児保護者用、小学1～3年生保護者用のアンケートで、皆さんにお伺いしたいのは2ページ問8の項目についてのご意見をいただければと思います。
事務局	会長から2ページ問8についてお話がありました。1から6まで環境の充実、経済的支援、教育の充実、相談機関の充実、子育てと仕事の両立、3ページの地域・親同士のつながりと6つのカテゴリーにまとめさせていただきました。各6～9項目あり、あまり多くなりますとなかなか全部読みきれないということでカテゴリー別に分

けさせていただいて、各項目で1つ選択していただきます。「次の項目で最も重要と思うカテゴリーを選択してください」とニーズを把握させていただくというところの手法を取らせていただきました。

この分野のここが掛川市が弱い等、市民の皆さんがどの程度重要と思っているのか等を主に聞きたいと思い、このような区分けをさせていただきました。

委員様の方からはもうちょっと違う視点から、ご意見をいただければ、またそれをこの項目の中に取り込みながら、良い調査票にしていきたいと思っておりますので、ご意見等いただければと思います。

会長

いろいろなご意見をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

委員

調査会社さんも来ているので合わせて聞きたいのですが、このアンケート調査をするにあたって、定量化、数量化ができる部分があると思います。結局、子育て計画って、実際の事業に結びつけるわけですよね。では、市としてどの事業に結果的に結びつけていくのかっていう構想、調査と実際の事業の結びつけについてはどのような関連を想定させているのか、どういう設定になっているのかを教えてください。

事務局

ありがとうございます。委員のお話の通りですね、子ども・子育て支援計画の中では、保育、教育の部分のニーズと確保方策。あとは地域子育て支援事業っていうのが17項目ほどあるのですが、一時預かりとか学童保育、病児保育ですが、そういうニーズ量を測定して確保していくという調査の中に含まれております。今回、問8につきましてはそういうことを踏まえた中で、今後これから5年先の中で、保護者が今のどのようなことに対して思っているところですね、そこを聞きたいということで、項目を6項目で設定をさせていただきます。

さらにそれについてどの項目が一番自分の中で重要かを聞くようにして、子ども・子育て支援事業計画のニーズの把握とは少し違うのですが、掛川市としてもこの部分を聞いていきたいと思っています。

会長

はい。ありがとうございます。

それでは皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、私から指名をさせていただきます。

委員

なぜこの調査が必要なのか、国に言われているかですか。10年前にも調査を行って、その時の項目とかに私も協力したのでわかるのですが、この期に及んでまたという感じがあるかなというところですね。こども大綱もできて、国からやれといわれ、掛川市も理由をつけてやるということなのではないでしょうか。やる目的として、それを何につなげていくか。その辺のビジョンの話を伺いたいです。

事務局

ありがとうございます。まず、この子ども子育て支援については、国の方で調査しなさいという必須項目があります。そこは必ず取らなければいけないというところが

ありますが、それ以外のところは掛川市がニーズを聞いているもので、必須項目に関連しているところもあれば、今ご説明している問8については、掛川市がこれから計画を作っていく中で、市民の意識、大枠で押さえたいという部分もあります。この調査項目もカテゴリー別に分けて調査をしたいと考えています。国の方が大綱出すと一緒に子ども基本法の中で、子どもに関わる施策を検討するときは、子ども、それから若者、それから子育て当事者に実際に声を聞きなさいってことが、義務化されたんです。ですからこの調査をまずもって当事者にしっかり聞くところは、必ずやらなきゃいけないところになります。これを掛川市としてはしっかり分析をして、子ども達や当事者にフィードバックしていくことが必要になってきます。それを施策に反映していくということが求められているものですから、まずもってそのところをしっかりと調査するという事です。ですので、施策に反映するために、必要な調査内容をしっかりと聞いていくところを、皆さんそれぞれの立場からご意見をいただければというものです。

委員

ありがとうございます。調査が目的ではなくて、調査を行い、弱点を皆で認識して、ではどうしようかということが大事で、調査だけににならないように気を付けて、掛川市民全員が幸せになるように意識して進めていくことが大事だと思います。

会長

ありがとうございます。

委員

まず基本的な数字教えてください。小学校1年生から3年生保護者全件、何件ですか。

事務局

おおよそ3,100件、小学校5年と中学2年は小学校5年生と中学に合わせて4300、子ども2,150件、保護者2,150件です。

委員

市民の意見を聞く、よくある話なのですけど。1年生3年生は全件ですよね。未就学児は1,500件、半分です。これは妥当な数字なのでしょうか。聞けばいいって、1人だって聞いたことになります。みんなの意見を聞いた上でそれを反映するとなる、1500件が未就学園児の何%かちょっと私の数字はわかりませんが、ちなみにこれ何%ですか。

事務局

25%、4分の1程度です。

委員

決して少ない数字でもないじゃないですが、やっぱりよくある、ただ聞いただけっていう、パブリックコメントもそうですけどね。やっぱり、ちゃんときっちりっていうね、その姿勢は絶対崩してもらいたくないと思っています。

ついでにもう1つ、問8の中身が小学校1年生から3年生の中で2つ抜けているんですね。小学校1年生から3年生の中で、環境の充実の1番、未就学のところの1番が抜けているんですね。あと、4番の相談機関の充実の2番目、妊産婦や乳幼児健診

というものが、小学校では抜けています。わざと抜いたのだと思うのですが、1年生から3年生もよかったら、そんなに該当しないだろうという予測かなと思うのですが、今言ったように、未就園児が1,500件、25%です。4人の3人は答えができないわけです。で、1年生から3年生は全員にいきます。1年生から3年生だったら、乳幼児を抱えた親も結構いるはずですよ。ということは、抜かなくてもいいのではないですか。入れておいてもいいのではないですかと思います。

あとは1つ選択っていうのはなかなかこの項目数からすると、きついなど。これ1個でないといけないのでしょうか。例えば2つとか3つとか、複数選択を可能にするっていう方法もあるかとは思いますが、その辺はどういったことになっているのでしょうか。

会長

お願いします。

事務局

ありがとうございます。今のご指摘のところですけども、やはり中でも検討したところですよ。3つにしようか2つにしようかというところは、大変悩むと思うのですが、項目が6項目ありますので、まずその中で一番大事なものはどれかという選択肢で、どうだろうかと今回提案をさせていただいております。

次のポイントの(2)の方で、その項目の中で、自分はどれが一番大事かというところで、聞くようにしていますので、一番重要なものに視点を置きまして、質問をさせていただきました。

委員

別にどっちが正解というわけじゃないですからそこはいいですよ。ニーズ、みんなの意見はどんな意見がたくさんあるかっていうのを聞くのだったら、選択肢が増えた方がより答えが求められると個人的には感じています。

あと学生の間8、2つ選択肢が抜けているのは、やはりそのままの方がいいですかね。

事務局

追加のところについてやはり少し検討して考えていきたいと思っておりますし、いくつか項目によってはですね、7つとあるものですからなかなか3つをつけてもらうのは厳しいかなという時に1個か2個、どちらかと思って、今回一つでご提案させていただいたのですが、やはりもう少し幅広いニーズをくみ取るために検討していきたいと思っております。

また統計のこともございますので、業者と相談させていただいて決めていきたいと考えております。統計的にはですね、1,500のうちですね、350のサンプルがあれば、ある程度一定の調査ができると伺っていますので、その数字を目標に回収をしていきたいと思っております。

会長

ありがとうございます。保護者の方の意見もお聞きしたいと思います。

委員

はい。子どもが1年生と年少と来年幼稚園とちょうど来年アンケートに該当するの

で、先ほどあったように「1つ選択してください」という。私だったらどうするのだろうと悩んでいました。1つだと選べないかなと、すごく困りました。そしてアンケートも後回しにしてしまうのではないかと思いました。

事務局

1つずつ選んでもらうと難しいので、6つあるカテゴリの中でそれぞれ2つずつ選ぶとかって言えば、そんなに悩まないということですね。

委員

2つだと、「これとこれかな」と選べそうですが、1つになると、「これも大事、これも大事」と選べず、飛ばして回答していくことになりそうです。他にもそのような方がいらっしゃるのではないかなと思いました。

事務局

率直なご意見をいただきありがとうございます。

会長

(2) 子どもの貧困対策に係る調査項目に移ります。
それでは皆様からご意見をいただきたいと思います。ヤングケアラーは子ども用アンケートには問37、保護者用には問30-2にあります。
どなたかご質問ありますか。

委員

掛川市さんはたくさんの施策を充実してやってくださっていると感じています。
今回の資料1-2も新たに見せてくださり、総合的にやられている中で教育・貧困を考えていただき本当にありがたく思っています。感謝しています。
子どもの貧困対策に係る調査項目の小学校5年生に関しましては、所属する小学校のお子さん達が関係すると思いますので、質問を述べさせていただきます。
まず質問ですが、調査は紙でなくタブレットを使用すると思いますが、その認識でよろしいでしょうか。
次に、調査期間は実際どのくらいの日程をお考えでしょうか。
もう1つ、子ども用の子どもの生活に関するアンケート資料3-1問4をご覧いただきたいです。今の身長・体重を記入してくださいとありますが、身長は書けるが体重は書けない小学5年生・中学2年生の女の子がいるかと思います。答えたくない質問には答える必要はありませんと書いてありますが、最初から書けない項目が出てきて躓いてしまうかなと思います。この体重を書く理由も併せて教えてください。

事務局

ご意見ありがとうございます。まず質問についてですが、おっしゃる通りで今、紙で調査票の配布をさせていただいていますが、この内容をWEB回答、実際にはiPadを使って回答していただくので、これがそのまま画面に出るっていうわけではなく、WEBのアンケートの作り込みはこれからしていく段階です。回答しやすいような設計をこれからしていく予定でございます。
期間については来年1月末から2月上旬までには、各学校に依頼をさせていただき、回答期間が2週間程度に設定しようと考えております。

体重については前回の調査でも設定させていただいています。理由としては間接的に発育の遅れがある場合、貧困家庭であるのではないかと危惧されるため、その把握のために身長・体重の両方が欲しいです。ですが答えにくい年齢の子もいますので、無回答であればそれはそれで結構ということでございます。

委員

ありがとうございました。大変よくわかりました。小学5年生がこの量をこなすのはかなりハードだなと思います。いろいろなアンケートがございます。アンケートを作る側は文言1つ取っても、言葉を精査して提示しています。もちろんかなり精査してくだっていると思いますが、量が多いと思います。全学調の質問調査も大分絞られてきました。少し多いような気がします。あっぷあっぷしてしまうのではないかなというイメージを持ちました。

2つ目です。8・9ページをご覧ください。問33です。「学校について何か望んでいることはありますか。（あてはまる番号にすべて○）」ということで、具体的に出していただいております。ただ1点だけ、社会が激動して学習指導要領が変わり、令和3年度からGIGAスクール構想で1人1台端末を子供達が貸与させていて教育がどんどん変わっております。学習のスタイルがどんどん変わってきておりまして、掛川市もGIGA班が作られ、教師が一方的に教えるという従来の一斉学習ではなく、子どもが主体的に学ぶシステムになっているかと思っております。これは掛川市だけではなく日本どこにいてもそうだと思うのですが、その中で「学校について何か望むこと、1番勉強をもっとわかりやすく教えてほしい」大変よくわかるのですが、今は教師がわかりやすく教えるという授業スタイルではなくなってきております。そのような気持ちでいるとお子さんも多いかなと思いますので、設問、回答の文言についてももう少し変えていただけるとありがたいかなと思います。学校が勉強をわかりやすく教えてもらう場なのだと子どもが思ってしまうと少しこちらとしても残念かなと思います。大雑把ですが、授業についてとか、大きな括りでもいいかなと思います。部活動の種類、内容、設備等を良くしてほしいとあるのですが、その辺は例えばですけど「設備について」みたいな具体的でない方が子供は○を付けやすいかなと思われました。細かなことなのですが、実際にお子さん達がこのアンケートをやるにあたって少しでも掛川市の幸せな未来に向けて申し上げさせていただきました。以上でございます。

事務局

ありがとうございました。教育委員会打ち合わせをさせていただいて最終的に決めていきたいと思っております。ありがとうございます。

会長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。他にありませんでしょうか。

委員

関連して、個々のiPadで答えるにあたって、回答をクラスの先生とか学校内の先生が答えを見ることができないことをどこかに書いていただくと子どもは安心して書けるかなと。踏み込んだ内容があるので、答えにくい、書きたくない、嘘を書い

てみたりすると思うので、絶対に先生が見ないとか書いたことについて秘密は守られるといったことを書いていただきたいです。そうなれば例えば体重とかでも書けるかもしれないと思いました。

また、自由記述の欄はアンケート用紙の行数でしょうか。もっと記入することも可能ですか。教えてください。

事務局

ありがとうございます。個人を特定することはございませんが、ただ、iPadを使う以上、IDとパスワードを親子にお渡しします。それで回答をしていただくようにしたいと考えております。全体的な統計を取るための手法としてIDとパスワードを使っていきたいと思っています。次の自由意見のところにつきまして、たくさん書けるようなスペースを取ってきたいと思っています。以上です。

会長

ありがとうございました。他にありますか。

委員

初歩的な質問で申し訳ないです。外国籍のお子さん・親御さんにもこのアンケートが行くと思うのですが、わからないでこういうのをスルーしてしまっていると思います。誰が書いたかわからないので、その辺の把握のしようがないのですよね。

会合に出席しますと、外国籍のお子さんの方が支援の必要がある子が多いように思います。例えばヤングケアラーの件は中学生が保育園の子を送り迎えしていたりするのを見かけます。同じ市内の子どもでも、外国籍の子供達のニーズを掴むにはどうしたらいいのかなと思います。このアンケートだとそこまで行き届いてないのかなと感じます。今、先生おっしゃいましたけれど、子ども達にこれだけの質問をして答えるのはハードではないかとおっしゃっていましたが、親御さん自体もこの質問が来ても書けないのではないかと思います。他の言語の通訳もないわけですよね。その辺に疑問を感じました。

会長

事務局、何かございますか。

事務局

ありがとうございました。各家庭に通知文をお配りしますので、その下にこの内容に不明点がある場合はこども政策課等にご連絡いただいて、そちらの方でサポートしていくような形をとっていく形が最善と思っています。先ほどお話の通り、皆さんに、要は個人を特定しないように配りますので、通知文にその一文を入れさせていただいて、回答に困るような場合につきましては、市の方からサポートさせていただきたいと、その旨を書かせていただきたいと思います。

会長

よろしいでしょうか。

委員

最後の自由記述ですが、前問の印象をそのまま引きずって、ヤングケアラーに縛られるような気がします。このアンケート全体で困っていることがあればということで、一区切りつけたほうがいいのかと思いました。

あとヤングケアラーのことについて、この調査で新たに入れたということはわかります。貧困調査という、表には出てなくて生活調査だと思うので、ヤングケアラーでの貧困っていう変なイメージ、そういう方もいらっしゃると思います。そのような変なバイアスというのですかね。そのバイアスに引きずられないように配慮し、調査をしていただきたい。ケアをやっている子どもは自分が貧困でヤングケアラーになっていると思っていない。そういう家庭じゃない場合もある。そこは貧困調査を表に出さないのおそらく子どもはそこまでは気づかない。そこは配慮していただきたいなと思います。

あと1点、ヤングケアラーに関してですが、子どもに聞く調査は今までであったのですけど、保護者に聞いて最終的にどこに繋がるのかを教えてください。

事務局

ありがとうございます。2年ほど前に県の方で小・中学生対象のヤングケアラーの調査がありました。今回委員が言われるように、保護者についても、その子どもがどのような状況かを今回聞いてみようということで入れさせていただいています。状況を把握したいというところですので、どのような回答が出てくるか、無回答で出てくることもあると思います。子どもと親のIDで紐づけをしておりますので、「子どもはこう思っているけど、親は答えていない」等が調査結果で出てくると考えております。

会長

ありがとうございます。紐づけされているということですね。

事務局

親もヤングケアラーだという認識がない家庭が多いということを聞いております。親御さんがこのアンケートに回答してくれることで、もう少し具体的に親側からも、ヤングケアラーの実態が把握できるかなということは期待するところであります。今までの学校の調査の中でもヤングケアラーの実態について調査を毎年県でしています。今回踏み込んで聞いているのは、ヤングケアラーに対してどんな支援が欲しいかというところを聞いていまして、私たちはこれからどんな施策に反映していくか、何かしらの支援をしていかななくてはならないと思っているものですから、親御さんと子どもさんと両方の当事者の声を聞きたいと考えております。

会長

はい。ありがとうございます。よろしいですか。

委員

親はスマートフォンで回答ですか。

事務局

親はスマートフォンで回答してもらうことを想定しています。

委員

先ほどの委員の話と関連しますが、これを他言語化できないのでしょうか。紙で配るのであれば何種類も作るのは大変ですし、どうやって配るかという話になると思いますが、WEB上でやるのであれば、そこで言語を選べるようなアンケートにはできないのでしょうか。先ほどわからなければこども政策課に聞いてくださいとおっし

やいましたが、その場所すらわからない人もいる、話せても読めない人もいる、その方々は回答しないと思います。「わからなかったら聞いてください」とよく市役所の方は言いますが、それはただの逃げであると思います。本当に回答率を上げたい、もっといろいろな意見を聞きたいと思うのであれば、そこでお金をかけるべきだと思います。

事務局

先生のおっしゃること、よくわかります。WEBで行いますので、そこで他言語を選べる形になれば良いのですが、そこについては相談させてください。可能であれば他言語を選べるようにしていきたいと思います。

事務局

通知を他言語で作成することは可能ですので、いろいろなケースを考えていきたいと思っています。

会長

ありがとうございます。私から指名させていただいてよろしいでしょうか。竹下委員、お願いします。親のところ、それに付随する子どものところをお願いします。

委員

次の「こども・若者に係る調査項目」で意見を述べさせていただいてよろしいでしょうか。

会長

ありがとうございます。

委員

アンケートを外国籍の方が回答するのは難しく、誰かしら支えていかないと難しいなと私達も思っています。どんな支援が必要かというところは自由記述でどのくらい記入してくれるかわからないと思いました。

会長

自由記述について何かありますか。

事務局

この調査の保護者のアンケートにつきましては、7ページで「最も悩みを感じている」で、項目を3つ挙げて記載をしています。次の8ページになります。これは新規の設問として、今回設定をさせてもらっています。お子さんにとって生活の中でどんな支援が必要ですか、ここを3項目に分けて選んでいただく形をとっています。ここで書いていただく回答と合わせてですね、これ以外に、また自由意見があればいただけたらと思います。重複してもこことの整合性をとれば、どのような回答をされたか、把握できるかなと考えております。以上です。

会長

ありがとうございました。それでは「こども・若者に係る調査項目」に進めます。資料4です。皆様からのご意見をいただきたいと思っています。

委員

就労関係があったのですが、このアンケートはニーズ調査ということなので当然誰が回答したかということとはわからないと思います。例えば3ページ問13-5で「現

在の状態について、関係機関に相談したいと思いませんか（〇は1つ）」とありますが、単にアンケートの回答だけではなく相談機関を案内するのはどうかというのが1点。

1 ページの2番「生年月を教えてください。」は年齢ではなく、生年月で回答しなければ統計的に困るのかをお伺いしたいです。

事務局

ありがとうございました。1点目先ほどの3ページの間13-5ですけども、やはり個人の特定ができないため、追跡で調査をして周知はなかなかできないと感じております。市としての情報発信として、「こういう相談窓口がありますよ」ということは広報誌とか、市の公式LINE等を使いながら周知をしていく必要があると考えております。

2点目につきましては、生年月の記載をお願いしていますが、別の調査ではダイレクトに年齢を入れていただくこともありますので、そこについては、事務局でもう一度検討させていただきたいと思えます。ありがとうございます。

会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

委員

1つ教えてください。1,500件抽出は、16から39という、24歳分の年齢層から、これは全く無作為ですよ。例えばこの16歳を何人、17歳を何人と均等化するのではなくて、全く1,500人を24等分の中から比較するという事でしょうか。

事務局

年齢で24区分できますので、その年齢である程度平均で取って抽出することになれば偏ってしまうと思えますので、そこは心配ございません。

委員

質問の1番の性別、これは必要ですか。3つまで選択肢があるということは聞かなくてもいいのではないかと感じてしまいます。必要な項目なのでしょうか。

事務局

後ろの方に、結婚と出産の大きい項目で質問がございますので、ここで女性・男性・その他と設問しています。いずれかに皆さん当てはまりますし、それを紐づけをした場合に、男性はこう考える、女性はこう考える。生涯未婚率とか結婚に対する意識とか、国の質問もそこを分けて調査の結果が出てきておりますので、ここは分けさせていただきたいと思えます。

会長

掛川市としては、結婚について何か特にやっている事業、或いは、不妊治療について何かやっているということはあるのでしょうか。

事務局

結婚関係ですけど、静岡県がマッチングのシステムを持っておりまして、そこに各市町、県内の方が登録をしてマッチングをされる事業がもう二、三年前から進んでおります。あわせてですね、掛川市では、結婚新生活支援事業ということで年齢と所得制限がございますが結婚された方に引っ越しとかアパートを借りた際60万円、もしくは

は30万円の支援しております。こちらは国が主導してやっているのですが、それを活用して事業を4年ほど進めてきています。こども政策ではないのですが、企画サイドでおせっかい婚活サポートということで、サポーターの方が入ってイベント、出会いの場を提供するという事業を進めております。県の補助金を活用しながら掛川市では結婚関係の施策をやっています。

不妊治療については担当から説明させていただきます。掛川市では不妊治療の治療費の助成をさせていただいております。令和4年度から保険料の適用ができるようになってきているため件数的には多くなってないといえますか、保険の対象が増えたため申請をされる方が少なくなっているところがあります。掛川市では保険適用になる前から対応させていただいております。

会長

ありがとうございました。

もう1つ伺いたいのですが、全体を通して調べていくと、引きこもった時期といつまで引きこもっているかというのは見えるのでしょうか。

事務局

ありがとうございます。引きこもり関係については3ページから4ページに並んでいます。今回16歳から39歳について質問をさせていただいていますが、福祉課では40歳以上についてこのような調査をやっておりますので、今回40歳以下で聞いています。引きこもっているという本人の自覚がありますので、どのくらいの調査の回答が来るのかは未知数です。

問13については1,500件対象にするので、おそらく発生率からすると数名しか該当する人がいないと考えております。そのままですと数人の回答になってしまうので、問14で「社会生活で日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありますか」と幅広く聞いております。今は通常の生活を送っているが、過去に不登校になったとか、引きこもりになっていた等そういった方に対して、問14-1で踏み込んで質問をしております。問14-1ではその時に改善・役立ったのは何ですか、誰ですかということを知りたい、また相談した内容等を聞いているので、この辺で複数の方がつけていただくとその対策とか、その人たちの思いをこちらでも把握できることを期待しているところです。

会長

ありがとうございます。興味があったので伺いました。ずっと長い間引きこもりになる前に、早いうちに支援の手が入るといいと思っています。

他にいかがでしょうか。私から指名させていただいてよろしいでしょうか。山梨委員お願いします。

委員

アンケート回答する方で簡単に○をつける方もいれば、切実にいろいろ思う方もいると思います。切実な方は厳しいところにチェックが入ると思います。これを書けば、うまく反映するのかな、うまく変わるのかなという期待を持って書くと、書いた後が大事になると思います。

1点質問ですけれど、この「こども・若者に係る調査項目」と、「子どもの貧困対策に係る調査項目」の保護者用に最終学歴を求めるところがありますが、これは必要でしょうか。

会長

いかがでしょうか。お願いします。

事務局

貧困は学歴が関係すると言われておりまして、低学歴の方ほど貧困の問題があると言われていたものから、貧困の調査には学歴が基本ついている形が多いです。掛川市も例外ではなく学歴を調査させていただいたということです。こども・若者の調査についても、今回引きこもりの方とか、家庭に問題を抱えている方の調査もさせていただくところもありまして、それとの関連性も取るためにこの最終学歴の問を設定しました。

委員

ありがとうございました。

会長

ありがとうございます。

委員

それぞれのアンケートのボリュームがあると印象が残っています。どの方がやるにしても本気でやろうとしないとやれないものになっていると感じています。先ほどお話がありましたが、これを提出すれば変わるのかなと期待を持ちながらやる方は1つずつ丁寧に回答していくでしょうし、そんなに本人の中に問題意識が無い方に関しては、だいたいでつけば出せばいいという出し方をされる方もいるのではないかと思います。先ほどの未就学が全体の25%の1,500件、そのうち350件回収できれば十分アンケートの結果が出るということですが、数字だけを聞くとそれだけで見えるものがあるのかと感じました。その350件のうちでだいたい出した方はどのくらいいるのかということが印象に残っています。貧困については最終学歴が関係していると感じています。だからこそアンケート調査が絶対に漏れないから大丈夫という安心のもとやっていたかかないと良いデータが取れないのではないかと思います。子どもも先生に見られる、誰かに見られるという不安があると自分の心と向き合いながらアンケートを提出するというのが難しいと思うのでもう一度整理をしていただけるといいかなと感じました。

会長

ありがとうございました。何かありますか。

事務局

ありがとうございます。先ほどのお話の中でIDとパスワードが漏れてしまうと個人がわかってしまうことがありますので、注意書き等に入れさせていただいて児童生徒に1枚ずつ渡しますので、まず自宅でやっていただく形をとりたいと思います。

会長

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

委員	<p>こども・若者調査は意見の聴取ということですよ。もともと前回の会議の時に、子どもと若者の意見の聴取、意見への反映ということをしきりにおっしゃって、どういった形で意見を聴取するのか、別途そういうことはあるのかをお伺いしたいです。</p>
会長	<p>お願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。前回の会議でこども・若者の意見が必要ということでお話をさせていただいております。今回、16歳から39歳といますのは、やはり結婚や子育ての部分がありますので、中学生に聞いていくのが難しいと判断をさせていただいておりますし、他市の状況、今までもこども・若者計画を持っている市町がありますので、参考にしながら今回16歳から39歳で年齢の幅を設定させていただきます。</p> <p>来年以降今度策定に向けていくのですが、中学生とか高校生の方に直にお話を聞く場を設けることを検討していきたいと思います。</p>
委員	<p>「こども・若者に係る調査項目」の13番を自分が回答しようとした場合、「1 学校・仕事で平日毎日外出する」、「3 遊び等で頻繁に外出する」、「4 人づきあいのためにとどき外出する」をどうやってつけばいいか迷うと感じました。</p> <p>それと13-7、13-8で相談した方はいいかもしれませんが、どんなところに相談したいですかと言われたときにこの場所がどんなことを相談させてもらえるのかをいちいち全部調べないとわからないと思いました。</p> <p>一番初めの子育てのしやすさ・親の子育てのしやすい環境が、子どもが幸せに生活を送ることができる環境とイコールだとはかぎらないと思いました。そこも含めて意見が言えない子ども達の考えを汲んでいただけるようなものだと思います。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。もう少し工夫して回答いただけるように考えていきたいです。先ほどの13番のところですが、今一度精査させていただいてやっていきたいです。13番のどのようなことをやっているかということは、実際関わったことがない方ですとわからないことがあると思います。これにつきましても、コメントが入るところがございますので、改めてこちらについても修正をかけていきたいです。ありがとうございました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>こども・若者に係る調査項目の一番最後のところで御意見がございましたら自由に御記入くださいとありますが、こちらは難しいと思いますので、望んでいるサポートやサービスはありますかとわかりやすく書いてあげると書きやすいのではないかと思います。</p>

	<p>いました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。質問の内容については修正をさせていただきます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>1つ質問ですが、アンケートは一斉に来るのですか。</p>
事務局	<p>概ね同じ時期に発送しますが、未就学児と小学1～3年生保護者と子ども・若者調査が1～3年生は全件になっていますので、子ども・若者調査1,500件が重なる方がいる可能性があります。</p>
委員	<p>私は全部対象になっていまして、全て回答することが難しいと感じまして確認させていただきました。抽出するなら全て対象となる方もいらっしゃると思うのでそうなってくると、私もモニタリングで毎年アンケート調査をしますが子どもがいる中でアンケートを回答するのが難しい。家でやるのにもスマートフォンを子どもがとってしまったりするので簡単に終わらせてしまったりするのが多いのと、読んで考えて1つ選ぶ、時間がかかる内容になるので手間のかかる方がいるかなと思いました。</p>
事務局	<p>先ほどのアンケートの負担ですが、小学校へお願いする部分ですが、きずなメールを使って保護者をお願いをしていきますので、それについての期間と、子ども・若者関係については期間を延ばしたりすることを検討していきたい。</p> <p>アンケートについてはなるべく必要ないところはジャンプして次の項目に行けるように、業者をお願いをしていきたいと思っています。項目は多いのですが、そういうところは機械化をして時間をかけずにできるように工夫はしていきたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。指名させていただきます。</p>
委員	<p>最初に言った通り、これをやればいい。それで終わりではなくて、「ここから」ということをいろいろと施策を進めるために必要です。協力をお願いします。アンケートをお願いするところに一文入れてもらって、皆さんと一緒に掛川市を良くしていきましょうということを表現できたら良いと思いますので、是非ご検討ください。</p>
会長	<p>ありがとうございます。何かご意見ありますか。</p>
委員	<p>先ほどの子ども・若者に係る調査項目、資料4の3ページでございますが、個人的な感想です。私は良いと感じましたのは13-7、13-8については相談機関等に相談しましたか、相談したことがある機関に○をつけてください、相談機関に相談したいですかと選択肢がたくさんあるのですが、わからない相談機関がたくさん出てくる中、掛川市はこんな機関がある、こういうところに相談すればいいという、市の相</p>

談、情報発信、相談提供にもなると思いますので、こういったところが今まで相談できなかった方が、相談できるようになればいいと思いました。

事務局

ありがとうございました。これを媒体として情報を提供できたらと思います。ご意見ありがとうございます。

委員

今までお話されてきたことかもしれませんが、こども・若者に係る調査項目が私の印象だと的が大きすぎるような気がしています。さっきのアンケートだと、子供の生活に関することとか、自身の行動に関する事で答えられると思います。例えば39歳独身で子供がいない方が、このアンケートをもらうと多分答えることがない。私には関係ないというような印象を持たれてしまうような気がしています。引きこもりの方が数件あればいいということだと思いました。引きこもりなら引きこもり。子育てなら子育て。結婚なら結婚と小分けにした方が、意見が取りやすいのではないかという印象を持ちました。

会長

いかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。今のお話ですが、掛川市としても初めての質問の中でいろいろなものを網羅してやりたいということでご提案させていただきました。今の太田委員のお話を聞きまして、アンケートの作りこみを検討していきたいと思います。

会長

ありがとうございます。

委員

未就学児のアンケートは実際のサイズはどのくらいの大きくなるのかを伺いたいです。

また、文字が多数あると読み取れない方がいます。疑問がある場合連絡先があって、その担当者がサポートをしてくれるサービスがあると良いと感じます。

紙で配布されても赤ちゃんがいる家庭でお母さんが問題を見ながらやるのが難しいと思いますのでQRコード等を使用して簡単に答えられるような形だと、中断しても再開できると思います。

相談機関の一覧表、その場所、連絡先、相談の内容が同封されているとわかりやすいと感じました。

会長

入力の仕方と説明するものがあるか。お願いします。

事務局

ありがとうございます。わからないところにつきましては、通知等に担当窓口書かせていただきますので、そこでわからないことについて対応する体制で臨んでいきます。

全部の調査でQRコードを読んで行う形になりますので、保護者の方につきましてはパソコンもしくはスマートフォン、タブレット等でやっていただくようになりま

す。

こども・若者等の事業所につきましては、子供子育て支援に関わる資料2-1を見させていただきますと、23ページに掛川市内の施設の一覧が出ておりますので、これを参考に、掛川市の子ども子育てに対する支援の相談窓口を載せていきたいと考えています。ご意見ありがとうございました。

会長

ありがとうございました。アンケート分量が多いのですが、もしかするとこれによって気が付かれることもあると思います。良いご意見が出たと思っております。みなさん、貴重なご意見いただきましてありがとうございました。これで協議事項を終了とさせていただきます。進行を事務局にお返しします。お願いします。

事務局

皆さん貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。
それでは最後になります、その他に移ります。事務局からのお知らせをさせていただきます。

(6. その他)

事務局

その他についてご説明させていただきます。資料を送付した際の送付文のところに、URLと、QRコードがメールでも同様の資料を送っていますのでご確認いただければと思います。今回調査票を5つお送りさせていただいたのですが、今日時間も短い中でご意見いただきましたので、調査項目に関してご意見等がございましたら、年末年始のご多用ところ申し訳ございませんが来年の1月5日までに、そちらのURLかQRコードを読み込んでいただいて回答をいただければとありがたいと思います。またその回答がうまくできない場合はこども政策課のメールに直接打っていただいても構いませんので何かしらのご意見がある場合は1月5日までにご回答いただければと思います。次第に書いてありますが、次回のスケジュールについてご説明させていただきます。第4回の会議ですけれども、令和6年2月9日の金曜日、時間が少しだけ早くなります。13時15分から15時15分でこの会議室で実施しますので、よろしくをお願いします。

事務局

以上をもちまして、第3回掛川市子ども子育て会議を終了します。本日は会議にご出席いただきまして、ありがとうございました。